

ケネディ大統領の急逝を悼み

全仏弔電を送る

去る十一月廿二日遊説中の米
 テキサス州ダラス市において暴
 漢の凶弾によるジョン・ケネ
 ディ大統領の急死は全世界をショ
 ックと悲嘆の渦中に巻きこんだ
 が、全仏麻布事務総長、阿部総
 務局長はラジオ放送でこれを知
 り直ちに協議し、廿四日午後三
 時頃次のような弔電をワシント
 ンのホワイトハウスあてに送り
 故大統領の冥福を祈った。

々全日本仏教徒は心か
 ら大統領の急逝を悼み
 心からおくやみ申し上げ
 ます。

一九六三年十一月廿四日
 全日本仏教会
 米国ワシントン市
 ホワイトハウス御中

なお同廿四日午後四時半には
 全仏会長高階彌仙禪師(代)が
 正式に在東京米国外使館を訪ね
 弔意を表した。

南越仏教總會から礼状

世界仏教徒の精神的支援に感謝

南ベトナムにおけるクーデター
 成功により、仏教徒のメッカであ
 るサイゴンのサロイ寺院(舍利寺)
 は喜びにわきたっているが、こ
 のほど同寺内にあるベトナム仏教
 總會の会長テイッチ・ナム・チャ
 ウ師と事務総長マイ・トー・トル
 エン師の連名で次のような礼状が
 全仏あてにとどいた。

一九六三年十一月十六日

ベトナム仏教總會

会長 テイッチ・ナム・チャウ

事務総長 マイ・トー・トル

トルエン

全日本仏教会長殿

親愛なる会長親下。すでに御存
 知のとおり、本年八月二十日夜の
 サロイバゴダ急襲と、南ベトナム
 全土で二千人にのぼる比丘、比丘
 ニそれに信徒を逮捕していたゴ
 ジン・ジェム大統領の独裁権は文
 字通り潰え去り、南ベトナム仏教
 徒に再び平和がよみがえりました
 これらの動乱によって我々仏教
 徒の長年の信仰、習慣や伝統はゴ
 大統領の冷酷な迫害、圧迫にも決
 して屈することはありませんでした。
 比丘、比丘尼及び信徒、それ
 に学生やインテリ階級の人々は病
 人扱いにより、極秘裡に且つ離れ

今般の衆議院選

全仏推薦の一三五候補が当選

ばなれに監禁されたのでありま
 す。貴会をはじめ全世界の仏教徒
 の方々の精神的御支援は、彼等
 して勇氣づけたいなる刺激を与え
 たのであります。そして彼等は求
 めていた生きる力を与えられ、心
 からの喜びに浸っております。
 彼等及び南ベトナム全仏教徒を
 代表し、我々は茲に貴会の御助力
 に対し衷心より厚く御礼申し上げま
 す。

仏陀の慈光が、あまねく貴国を
 はじめ全世界の仏教徒に輝くよう
 祈り、仏教を通じて我々と昔日に
 勝る交流が深まることを念願いた
 したい所存であります。我々の謝
 意を御受け下さい。 合掌

全仏では、過般の第三十回衆議
 院選挙に際して、仏教系議員の候
 補者百五十名を推せん、夫々推せ
 ん状並に、激励文、ポスターなど
 を送って激励し、又特に全仏の
 役員に対しては、激励電報を発信
 した。今回の選挙における結果の
 概要は次の通りである。

一、加盟団体より推せんものあつた
 候補者総数 一五〇名
 一、激励文、推せん状送付者 一五〇名
 一、このうち当選者は池田勇人氏
 他 一三五名
 一、当選者の所属党派別は左の通
 り

- 自民党 一一七名
- 社会党 一三名
- 民社党 三名
- 無所属 二名

国際専門委員

- 金岳良 森川宣
- 石原成 村上日
- 倉放賢 伊藤越
- 村上天 佐藤道
- 村上澄 古野東
- 上野宗 波多野
- 小泉昌 清原良
- 柳生善 三浦康
- 森岡善 栗本俊
- 積日学 栗本俊
- 村瀬良 熊野壽
- 佐藤智 熊野壽
- 松平智 熊野壽
- 狭川明 阪口光
- 都守泰 加納光
- 半田孝 川井春
- 伊久隆 南井春
- 高木貞 南井春
- 松見得 野依正
- 門原康 勝田光
- 田中元 菅原亮
- 村沢義 菅原亮
- 接井栄 友松照
- 佐藤行 常光浩
- 小谷徳 村野宣
- 森徳水 古野宣
- 狩野獲 金子道
- 井上恵 小沢照
- 下野潤 木村智
- 小宮高 新谷寛
- 神野真 藤原俊
- 谷野真 藤原俊
- 松村寿 源野隆
- 吉井浄 山本芳
- 吉本道 山本芳
- 浅井宗 和泉得
- 石上慈 狩野獲
- 北之内 久保壁
- 熊野竜 栗本俊

文化専門委員

- 小宮勝 接井文
- 榎本良 白川良
- 杉岡賢 鈴木敏
- 関岡順 新美孝
- 仲登有 林静寛
- 能登有 古屋道
- 船登有 茂田井
- 三沢智 山田貫
- 森芳 山田貫
- 吉田敬 桜井秀
- 米山久 大河内
- 赤松常 石川存
- 井上真 今井大
- 岡野貴 上村真
- 川田聖 久保田
- 菅原徳 滝口祐
- 永田正 滝口祐
- 藤井真 橋本照
- 村野宣 古坂明
- 壬生照 山田一
- J.R.フリンクリー 小谷淡
- 五島行 三明永
- 浅井堅 石橋益
- 伊藤道 内山憲
- 伊藤義 金岡秀
- 雲野一 塩入亮
- 紀野亮 増永義
- 西山亮 西永義
- 西沢亮 西永義
- 真溪義 松本徳
- 摩尼清 早島鏡
- 伊藤完 西村輝
- 常光浩 竹中素
- 長田恒 大島忠
- 細川量 大島忠

事務総局

- 事務総長 麻布照海
- 事務局長 阿部竜伝

全仏新年度予算を了承 積極的な事業計画を発表

常務理事会で承認

全仏常務理事会は十二月三日午後二時から四時三十分亘って東京築地本願寺特別室において開催され、左の議題について熱心に審議した。

議 題

- 一、聖書贈呈に関する件
- 二、加盟団体の負担金に関する規程の一部変更案
- 三、昭和三九年度財団法人全日本仏教会事業計画案
- 四、昭和三九年度財団法人全日本仏教会歳入歳出予算案の件

追加議題
一、「寺院名鑑」に関する件
訓導理事長議長席につき、署名委員に田丸道忍、来馬道断兩常務理事を指名し議事に入った。

第一号議題が上程され、阿部総務局長（国際局長代行）が果々説明をなし、デンマーク聖書協会よりの申入れを受けるが、但し返礼として日本仏教バイブルを目錄程度の意味で贈ることに決定。

第二号議題上程。伊東総務部長が説明す。太田常務理事より時局対策協議会の事業成果につき説明を求められ、別所文化部長より説明をなした承された。次いで第二号及第四号議題は関連性があるの

で一括審議に附した。四局の各部長が夫々各局の新年度における積極的な事業計画案について説明をなし夫々承認決定を見た。

終って太田常務理事より緊急提案が出され、先きに急死した故ヶ

ネデイ米大統領の追悼法要が国家的行事として十二月十七日比谷公会堂で開催されるが、全仏も実行委員を出して参加されたい旨申入れをなし、全員の了承を得た。次いで追加議題が上程され、第一号議案「十二月十三日午前十時から京都東本願寺に於て全国宗務総長会議を開催する件」、二号議案「同日午後一時から同所に於て西日本仏教会会長会議開催の件」について諮り、夫々当局案にて開催する事を了承。第三号議案「寺院名鑑に関する件」については、寺院名鑑刊行会々則第五条の「会長」に全仏理事長が就任することとし、この会則に基づき実動に入る事を了承決定した。

当日出席者は、訓導信雄、阿部竜伝、金剛秀一、上野頼榮、二ノ宮清海、金子弁浄、来馬道断、平林有高、山本杉、清田寂坦の各常務理事、当局麻布事務総長以下各局長部長、主事（順不同敬称略）

日蓮宗管長

金子総長らと布哇巡錫

全仏副会長、日蓮宗総本山身延山久遠寺法主、同宗管長藤井日静親下は、同宗宗務総長、全仏常務理事金子弁浄師、身延山東京別院藤井教雄師らと共にハワイ巡錫に十二月四日午前十時空路出発した全仏から麻布総長、阿部局長が見送った。

浄土真宗 本願寺派

総長 太田 淳 昭

総務局長 神田 寛 雄
 法式局長 永野 鎮 雄
 総務局長 村上 貫 之
 組織局長 芝原 郷 音
 総務局長 水谷 英 俊
 総務局長 水谷 英 俊

真宗大谷派

宗務総長 訓 覇 信 雄
 参 務 五 辻 実 誠
 同 清 谷 得 竜
 同 宮 地 義 亮
 同 嶺 藤 亮
 同 高 原 覚 正

曹洞宗宗務庁

管 長 高 階 瓏 仙
 宗務総長 金 剛 秀 一
 参 議 福 山 忍 裳
 同 乙 川 瑾 映
 同 宮 前 鳳 洲
 同 宮 崎 文 輝
 同 山 田 義 道
 同 二ノ宮 清 海
 同 山 田 義 道
 同 若 槻 宗 一
 同 若 槻 宗 一

聖観音宗

金亀山 浅草寺
 貫首 清水谷恭順
 執事長 木下 亮 孝
 東京都台東区浅草公園

真言宗智山派

管 長 秋 山 祐 雅
 宗務総長 上 野 頼 榮
 庶務部長 田 中 隆 恵
 教務部長 藤 井 竜 心
 財務部長 横 山 栄 三
 出張所長 小 沢 照 禱

孝道山本仏殿

孝道教団本部
 統 理 岡 野 正 道
 副統理 岡 野 貴 美 子
 横浜市神奈川区孝道山

組織局長 二ノ宮清海
 文化局長 中山理々
 総務部長 岩野真雄
 組織部長 伊東堅純
 国際部長 岩本昭典
 文化部長 柳了堅
 主 事 別所弘因
 同 福井清俊
 同 森谷恵智子
 同 相馬広清
 同 鎌田良昭
 同 小瀬川亮晃
 同 青柳嘉枝

関西事務局

事務総長 清谷得竜
 総務部長 古川智徳
 組織部長 水谷英俊
 国際部長 佐藤考全
 教化部長 奥博良
 審議部長 伊原文郁
 主 事 深具文郁
 同 梶原隆也
 同 白馬幸真
 同 武内了真
 書記

寛永寺

住職 大照晃道

法隆寺管長

間 中 定 泉

基督教に対する仏教者の態度 (下)

第三には、全ての宗教はその外観が類似しているにもかかわらず、必ずしも同一ではないと云う立場である。世界の主要宗教は類似した仮定の下に創立されているけれども、其等の究極の实在に対する見解や経験の相違を慎重に検討しなければならぬ。その学史的、文化的背景を考慮に入れた時、各々独自のユニークな体系であると結論付けられる。それらは絶対真理を表現する異なる見解及び概念にすぎない。この立場は言語を超越した永遠の問題に於いて釈尊が沈黙した事によって例証される通り、仏教にとって有効であると筆者は思うのである。此の第三の立場に立って、此の小論はその展望と趣旨を徹底させたいと思う。各宗教は月を指す単なる指にすぎず、各自は月自体になる事になる事は出来ないからである。

第二章 本論

第一節 仏教と基督教の比較

全ての宗教は根本的には同一であるとして云う考えは興味をそそられるもので、又、人道的でもある。しかし、パトランド・ラッセルの如く、全ての宗教はことごとく真実ではなく、有害でさえあると主張する者もいる。宗教的観点から云えば、この様な結論の論理的根拠は、それ等の宗教が皆質物なるが故と断定する事が出来る。又、全ての宗教に他の動物と異なる人類

の根本的且同一の宗教心発生の根源を見出す者も居る。この全ての宗教を一応認める後者の立場からすれば、より多くの混乱を招くおそれがある。世界の文明を危懼に陥れるこの考えは、有識者をして益々全人類を統合しようとする同一基盤の樹立に奔走せざるを得ない。表面的には、全ての宗教に類似点のある事は認める。基督教徒は今日この観点から他の宗教を見下し、非基督教徒を自分の宗教に引入れようとしている。その中の一部の狂信者は、仏教を異国の扮装をした基督教の模倣にすぎずそれ自体劣等且不完全であるとさえ極論している。以下は彼等の論拠の概略である。

二、両教は共ニ世界宗教で、主に社会福祉に貢献している。

又全人類の救済を説き、人類への奉仕が絶対真理を普遍的なものにしていく。

三、両教は共ニ究極の真理に關わり、その真理は個人を超越している。

以上の主張は、一般信者に納得させるに充分であり、この主張自体は無害なものであるが、此の主張の成立する理由と目的が奈辺にあるかをよく検討してみる必要がある。

第二節 両教の特別共通点

前節と関連して、以下の類似点は両教を同一基盤に置くものと考えられる。思慮深い、仏教者は無

智な仏教徒に敷衍している。もっともらしいこの主張の誤謬を採知し、是正しなければならぬ。

一、仏基両教共に一元的である

基督教は絶対唯一の神を信奉し、仏教は究極の实在は一如であると説いている。

二、両教は共ニ絶対真理が有限なる人間に啓示されるもので、人間がそれを見出すのではないとの立場をとる。

基督教は神の三位一体説を唱え、仏教では仏の三身説を唱え、共に原理的には同一である。基督教では神はコスで宇宙に普遍し、地上の救済主たるイエス、キリストに顕現したものと説き、仏教では法身が宇宙を網羅する絶対实在の究極の原初状態であるとする。此の源泉より、報身仏の思想が生れ、これが人間に顕現した時、いわゆる応身仏として人間仏陀たる釈尊が出現するのである。

三、両教共に救済は信仰によって得られるとする。

基督教では罪人は神の絶対的愛より救われる。信仰により個人は神の意志の前に救われ難い罪人として屈従しその原罪性にもかゝらず、救済される。仏教では煩惱具足の悪人は永遠の仏の大慈悲心による信(願)によって救われる。煩惱具足のままの悪人正機が強調され、永遠の仏によって信(願)の回向が成就する。

四、基督教では十字架上のイエスの死によって神と人が結びつけられる。仏教では救い難き衆生は十八願である阿弥陀仏の名号によって究極の真理と関わり合う、両教共、自己随落に依って救い難き状態の人間に最後の救いの手を差し

のべるのである。

五、基督教信者はイエスの十字架の死と云う神による偉大な人間犠牲が彼等を償ったと考え、仏教者は阿弥陀仏の大悲願が我々の心に内在する信の資性であると知る。両者共、人間を超越した偉大なる力が彼等をして人間回復に向わしめるのだと信じている。

六、基督教に於てはキリストを信じぬ全ての者は永劫の地獄に陥入ると考え、仏教では救いにあづからぬ者は輪廻六界の一つである地獄に再生すると説いている。

七、神の愛の下で生活する基督教者は神の守護を受け、神の霊と交わり、且つ同信者と契りを結び、事が出来る。仏教では、阿弥陀仏の信仰を受けたものはその大慈悲の下で生活し、他の有情と調和した生き方をする。

以上の共通点はたとえ外面的であり、且包含的であっても、此等を指示された場合、今日の仏教開教使の多くは、その矛盾した主張を論破するに無防備状態で、その教義上の根本的相違を明瞭に説明出来る者が少ない。此処で留意せねばならぬ事は共通点が必ずしも同一点ではない事である。それは丁度、共産主義者と資本主義者が同じ人間であると云うのに似ている。彼等が共通しているのは、両者共生する為に飲食しては就寝し又排泄する点である。我々が動機と興味に支配された理性的動物であるからには、仏基両教に要約される宗教生活の動機と目的を明らかにする必要があると思う。そうする事によってのみ、我々は宗派意識や偏見を越えて、客観的に宗教的でもある両教の教義体系の特

異性を抽出する事が出来ると思

第三節 両教の根本的相違点

さて、此処で始めて仏基両教の根本的相違点に触れたいと思う。筆者は浄土教徒であり、以下の叙述に対して同僚仏教者諸兄より異論が出るかも知れない。しかし、しばしの諄聴と御叱正を賜りたいと思つている。筆者が浄土教を選んだ理由は、それが最も基督教に類似していると思われるからである。

第一 仏基両教の世界観

仏基両教の第一の相違点はその世界観である。基督教では宇宙は創造主たる神によって創造され、仏教では、宇宙は無始無終の自己創成物にすぎないと説く。この根本的相違から種々の異同が出て来る。此の論調を進めると、基督教は根本的には二元論であり、仏教は一元論であると結論付けられる。基督教では神は創造物たる宇宙から分離した第一且究極の原因である。それでは一神教的ではあるが一元論的ではない。仏教で説く仮説によると既に或未知の宇宙は太古から存在し、絶えず変化しているが、論争の余地ない業と名付ける因果の法則により、何物も加減しない。仏と衆生は絶えず変化する包含的实在の中で相依相関の關係にある。基督教では神は造主なるが故に秩序ある宇宙に干渉する力と權威を有し、神はその意志で創造物を支配する。仏教では、宇宙の生物を変化変形する事は人間の力によって可能ではあるが、何者も、仏陀でさえも業の法則を変える事は出来ないと思つて、故に基督教者は救われるが神自身になる

事は出来ず、仏教者は業の束縛より解脱した時成仏すると説く。

第二 神と仏について

基督教では神は至上のもので、宇宙や人間とは自ら区別される。仏教では、仏は既知未知の宇宙に存在する有情無情に遍在し、同一化される。神は絶対愛であり、彼は絶対慈悲であるから、両者が全く同一であると云う主張は的を得ていない。基督教では神は創造主であり、彼の創造物たる愚鈍且救い難い人間に深い係りを持っていて、神は万物の全にして唯一の原因なるが故に創造物に対して責任を感じる。万物は神の意志に従って存在するから、神を主とし、絶対服従すべきものである。仏教では永遠の仏は宇宙創造の至上神ではなく、又その超越的な力や權威と関係がない。仏は根本的には一如の姿で実在の三面(三身)である宇宙に内在し、その遍在性の故に「自利利他円満」は全ての生とし生けるものに適用する。即ち自らを制する事は、他を利する事であり、自他共に融通する利益の真理である。此の一節は仏が私に内在し、私が仏に内在するという精神の意味、即ち一如の特異性と實在性を有している。我々人間にとって、各人の生活はたとえ異なっている、根本的には同一であるとの体験を得る事によって、此の深い意味を解する事が出来る。真理はそれ自身排他的なものではなく、他と領ち合うところに存在しその意義は分離分割からは到底生れて来ない。

第三 両教の人間観

創世記に見出される創造の神話によれば、神が自分の像に似せ

て人間を創り、魂を吹込んだと云われる。この魂により、人間は他の動物と区別される神性と優越性を持つている。全て他の動物は鶏や魚は云うに及ばず、神によって人間の欲求を満す様創られ、我々人間はその場に於て彼等を支配し、使役する権利を神から与えられた。この考えが西洋人の絶間無き自然の征服に駆立た、その産物を文明人のくさびとして利用して来たのである。此の宗教的權威に与える考えと異なり、仏教では、万物に仏性が備わっていると説いている故に全ての生命は尊く、如何に微小なものといえども、全宇宙の中の意味ある構成物なのである。勿論東洋のある地方では生命が極端な形で尊重されるが、これは仏教の根本義に副うもので、軽視する訳にはゆかない。実際にこの宗教情操は如何なる教義上の束縛から離れて万物に及ぶべきである。これが仏教の一元論に基づく論理的帰結で、この信条は、万物の皆、各々の占める位置と意味を宇宙の一如の中に持つと云う縁起の思想に起因する。故に仏教はその人間観に於て自ら基督教と異なっているのである。

第四 罪と苦について

仏基両教に「自ら播いた種は自ら刈らねばならない」と云う自業自得の原理に基づいているが、これには特別宗教的な意味はない。此処で我々は両教の相違点である因果応報と罰の問題について考えを進めて行きたい。仏教で説く「苦」と基督教で説く「罪」の意味には相違がある。両教共に人間の論拠が異なっている。基督教で説く

原罪は仏教に無い。仏教の業感起説によると、無智が諸悪の根源で、全ての苦を惹起する原因である。基督教では、貧困はエデンの園で人間が神の意志に反逆した事に基づくとし、罪は根源的には神の命に反抗した罰である。苦は人間個人且集団の究極実在(真如)への無智から生ずる産物で、苦は人間存在の個人的社会的道徳的乃至精神の水準の不完全さと限界から生ずる。悪は人間の無智から生ずるが、基督教では罪は根源的に人間に内在する神への反逆性に対する代償であると説く。仏教では無智は我々の迷妄より生じ、仏性を究明する際に生ずる排泄物で、丁度磨かざれば生ずる銀の錆に譬えられる。

第五 地獄の問題

基督教に於て地獄は永遠の破壊である。誰しも此処に陥ればルシファアがサタンになった如く絶對絶命であり、仏教ではそれは幻想であり、人間の無智によって陥入ると説く。それは利己主義の根源であり、生涯の不均衡状態である。此の無智が滅せられて始めて純朴な真如の姿が現われる。故に基督教では煉獄が決定的であり、仏教では地獄は暫定的である「転迷開悟」即ち無智を転じて悟りを開く事が不可欠なのである。

基督教では不義なる者は最後の審判日に永遠の地獄に陥される。これは神が創造主たると共に審判者たる事を示す。仏教では人間の悪業は決して永遠の仏から復讐的な目でみられず、むしろ慈悲の仏は無智な人間の有限の愚行を了解する。人間との類似性によって仏は全ての有情と共に苦しみ、悩み

災難に遭遇する。衆生に憐みを持たれるのは仏が衆生と関り合い、我々の仏に至る迄撰取して捨てないからである。故に基督教では、悪者と罪人はキリストによって贖われ限りの悪の故に無智に、悩む者は阿弥陀仏の加護を受けるのである。我々が悪を理解し打勝つべきもので、悪を喪失した者が救済されるのは、阿弥陀仏が我々に代つて、悪の慈悲智慧の光に照されて根絶する迄苦しむ悩む為で、その結果、仏教の救済は苦悩と関連して、成立し基督教の救済は罪人や悪者の最後の審判日の破壊と関連して成立する。

第六 両教の信仰感

仰信は浄土門の特質で、自力門の信念と区別されるが、共に我々有情に永遠の仏と合一する仏陀(覚者)になせしむ為のものである。基督教ではキリストを受入れる事が信仰である。これが救済即ち免罪の必要条件で、彼の尊い自己犠牲が基督教の救済の根幹をなす。浄土門で説く仰信とは、真如即ち阿弥陀仏の十八願と浄土に対する懷疑から解放された神秘的状態を指す。基督教では信仰は罪人を浄化し、聖者にする。浄土門では阿弥陀の信仰者はあくまで本来死すべき運命を担って苦の法則に従い、他の普通人と変らず愚行や感情に支配される、基督教では罪人はキリストを信ずる事になり、聖者となり彼の罪は雪の如く白く洗われる。浄土門信者は、死すべき運命を担いながら死に至る迄有限性の中に住し、過失を犯しつゝ救済され、死後に浄土往生をする

浄土門の信仰は精神的逆説たる人生の矛盾を見究めつゝ新しい見方で人生を歩む事で、人生の逆説的真理を矛盾したものから区別し、そうする事によって死に対する恐怖の念を抱かない。仏教では信仰は業の法則に反しないので、此の立場から、仏教開教使は正々堂々と論陣をはる事が出来る。此処で留意すべきは、阿弥陀仏はその神秘性によって業力が無効とされるが如き最高神ではない点である。むしろ阿弥陀仏は悪業を正業によって抹殺し、悪への傾向性を善導する役目を達す。故に情しみに愛によって打勝たれるもので愛によって打勝すべきものではないとの結論に達する。ただし、愛は滲透すべきものであつてその満ちた時には憎しみの存在する余地がない。これは丁度我々が暗室でつまづく様なものである。盲目なるが故につまづき死傷するが往々にして、我々はそれを部屋(世界)が悪に満ちた穢土だと信ずる如きものである。しかし点火すれば部屋は快適な場所と知り、我々の誤信は是正される。信仰は我々の智眼を開く光の如きもので、暗黒は無智を象徴し、無益且閉塞的である。

第七 瞑想と祈りについて

仏教では瞑想について種々なる語彙を当てている。曰く観照、沈思、内観、思念等である。或者は此の瞑想を祈りと同義化し、その多くは残念な事に、仏教の根本的行道である瞑想と基督教の祈りを混同しているのである。瞑想とは真如を見究める人々の智的心的自覚状態で、瞑想者はそれを積極的に求めるのではない。機根の熟し

浄土門の信仰は精神的逆説たる人生の矛盾を見究めつゝ新しい見方で人生を歩む事で、人生の逆説的真理を矛盾したものから区別し、そうする事によって死に対する恐怖の念を抱かない。仏教では信仰は業の法則に反しないので、此の立場から、仏教開教使は正々堂々と論陣をはる事が出来る。此処で留意すべきは、阿弥陀仏はその神秘性によって業力が無効とされるが如き最高神ではない点である。むしろ阿弥陀仏は悪業を正業によって抹殺し、悪への傾向性を善導する役目を達す。故に情しみに愛によって打勝たれるもので愛によって打勝すべきものではないとの結論に達する。ただし、愛は滲透すべきものであつてその満ちた時には憎しみの存在する余地がない。これは丁度我々が暗室でつまづく様なものである。盲目なるが故につまづき死傷するが往々にして、我々はそれを部屋(世界)が悪に満ちた穢土だと信ずる如きものである。しかし点火すれば部屋は快適な場所と知り、我々の誤信は是正される。信仰は我々の智眼を開く光の如きもので、暗黒は無智を象徴し、無益且閉塞的である。

た時に受取るのである。それは秩序正しい一元的な宇宙の意味とその基盤が、個人の有限的稀少性をも包含するという感受性の強い受取り方であり、祈りは他方或る程度の報償を期待して神と交わる積極的な行為である。即ち懇願、嘆願、和解を意味する積極的な行為である。

仏基両教では、この瞑想と祈りと云う二つの言葉によってはっきりとその意味を区別している。仏教徒は瞑想による奇跡や代償を求めず、基督教徒は祈りによって奇跡的な変身や自己放棄を求め、一言にして云えば祈りとは、過去の罪を払拭する為の悔改めの告白である。自己の罪を認め、力ある権威者としての神に恐れを抱き、それに自己を屈服させる事である。自己の不品行を免罪して貰う為に積極的に神に祈り、悔改めと嘆願を通じて人格化された全能なる力と取引する。

仏教徒は万物の究極的善意を深く信じているから瞑想によって神と取引する様なことはしない。仏の慈悲智慧の意味するところは、人間の時間的行為の底に流れる善意を汲取り、如何なる人間をも捨て賜わず、摂取する事である。これは必ずしも仏教徒は悪果に対して恐怖心を抱かないと云う事ではない。恐怖心は因果の法則に基づき、道徳的責任として個人にまつわるのである。健全な恐怖心は、合理的であるから罪悪感や不安感を伴わない。冥想する者にとって悪果が個人的であろうと集団的であろうと、自己の所作に基づくことを知っているから、瞑想によって肉体的、社会的悪に対する自

己の道徳的宗教的ジレンマを超越する。そうする事によって貧欲心や虚栄心の充滿する自己にまつわる悪を退治し、善業を不朽なものとする事が出来る。仏教徒はあくまで自己より出発し、決して自己から逃避しない。信仰は我々を自己と対峙させ、自己を見究める事によって他をも見究められると仏教では説いている。

祈りでは、根本的には自己以外の何者かによって、自己や自己の所作の結果から逃避させる試みである。自己の悪業に対する責任は自己以外の或る力に転嫁され、それに罪と呼ぶ人間の悪業を抹殺する働きを期待する故に、一部基督教徒では信仰による癒しや奇蹟が公然と信じられているのである。此の主張は仏教徒にとつては受入れられない。業が人間の肉体的、知的・道徳的、精神的存在を規制する事を絶対信条として受取っているからである。もし仏教で「祈り」の言葉を使用するならば、その意味を限定しなければならぬ。仏教にとつて祈りは宇宙に生を受け、制約を受け、且つ従属しつゝも自己の特質を生かし、生かされている事に対する報恩感謝の念である。この意味で仏教徒は祈りを捧げる此の報恩感謝は、私ものければ貴方内も無い、仏が私に内在し、私が仏に内在する境地である。この精神的合一の中に、尚且我々は罰や精神的去勢を伴わぬ有限性と過失性を保持しているのである。

第八 人間の死後観

二つの観念「義の王国」と「浄土」(或は涅槃)は共に死後の存在を仮定する点では相似している。聖書には神の王国を訪れる者

に階級があり、それは此世に於ての善業に比例すると示されている。しかし神は創造主であり、我々は被造物であるから我々は決して神になる事は出来ない。神は無比であるからである。浄土門では全ての者が仏になる可能性を持っている。又基督教では義とされる者のみが天国に昇天するに對し、仏教では一切の有情がその悪への傾向性の故に浄土に参る事が出来る。基督教では昇天が究極の目的であり、仏教では開悟が、成の始まりであり、開悟者は菩薩道に入り、絶えず衆生救済の為利他行を実践する目的で再び俗世間に還る。仏の大慈悲心である。自利利他圓滿の故に、仏は罪惡深重の凡夫のいる限り、正覚を得ない。仏教によれば菩薩行にはこの往相と還往が無限に続くのである。

第九 両教の幸福観

我々は肉的存在の故に快樂と幸福を混同するが、宗教的には瞬間的快樂は幸福と区別される。しかし仏基両教共、人間の幸福に別々の定義を下している。基督教では幸福は人間個人の為のもので自己の魂とは自己中心の幸福を意味している。仏教では幸福は普遍的なもので、一つの我や魂の独占物ではない。隣人愛の中に個人愛は解消されてしまふのである。これを我々は「自利」と云っている。換言すれば「自利利他圓滿」はそれ自体、生産し獲得するものではなく、各人が自己の個人性をより高次の自己に昇華するのである。仏教徒はこの言葉に表現出来ぬ幸福の状態を名付けて、自発性、自然性、自由性、同一性、相关性等と呼んでいる。しかしこれらの言葉

は単に我々の体験を叙述するにすぎず、真理は言語を超越した処にある事を理解している。仏教では物質的肉体的幸福は我々の意志と行為に依存し、癡病、延命、蓄財、保障等は此世の一時の必要にすぎないと説いている。其等は自身、究極的実在性を持たぬから、人間の知識と技術の発達に伴って未知の経験領域が狭められた時解決されるものである。仏教徒は此処で俗世間の問題と出世間の問題を混同しない様戒められている。

基督教では幸福感を解釈するのに物質的であれ、精神的なものであれ、其等を全て個人的代償と結びつけて考えている。キリストの処女懐胎や復活の如き奇蹟が重要な位置を占め、聖書には、死者が蘇えり、盲人が癒され、病人が全癒し、群衆がたつた五片のパンで満腹したことが書かれている。仏教でも、仏陀や其他の聖者が奇蹟的行為をなした事はなくもないが我々は仏陀が精神生活に直接関係の無い奇蹟行為を唱かぬことを銘記すべきである。事実此等の奇蹟は、仏教史上の大大人物に対して、後世の信者が理想化し、神化したにすぎない。

第十 両教の社会倫理観

仏教は屢々、社会福祉に積極的貢献しない。宿命論的、出世間的宗教なりと非難される。これは何等根拠がなく、非難者の仏教史に対する無智をさらけ出す様なものである。仏教は、印度、其他極東の諸国で産声を上げ、その平和的無抵抗の哲学は、歴史が示す如く、其等の諸国を早獲な国から、植民地的商業開発地にした。又、

今日の多くの仏教国は貧困で、経済的政治的援助を必要としている。戦争の惨禍や其後の開發、政治的偏見は此等仏教諸国の人々を盲従と無智に導いた。他方、西欧の諸国では宗教の名の下に強力且豊裕になった。富める者が洗練されているが故に文化的であり、貧しき者は不作法なものが故に非文化的であると云う事は、精神的な価値判断の基準にはならない。事実仏教では、人間に高下の差なく、同一なる事を唱えている。精神的には優勢劣勢の差別はつけられないからである。

仏教では、善業は救いにあづかる動機からするのではない。基督教ではその教義上、他の非基督教徒を引入れ、改宗させる尊い宣教の目的がある。しかし多くの献身の宣教師は自身の言葉でもある「人はパンのみに生きるにあらず」と云う言葉を忘れ勝ちである。真理は売買や忠誠、献身の対象にはならない。基督教の宣教は、最高神の下に人類を統合させようとするが、仏法の宣布には各個人の多様性を尊重し、各人の個性と異同性にそれぞれの地位と意味を付加している。故に仏教では、仏と人はその完全性、不完全性の故に貨幣の表裏の如く両側において実質的には同一であるとし、この形而上学上の矛盾は瞑想による直観的観照、即ち信仰により洞察し解決される。

結論

此の小論は、仏基両教いづれかの優越性や劣等性を論証及び反証する為に書いたものではなく、異質的宗教伝統の中にある仏教開教使に自己の立場と、他との根本的

相違を知って戴く為に書いたものである。これは単なる相違点の抽出であり、真理に対して、独自の主張を為す為の道具ではない。兩教に対して、見逃す事の出来ない正当な質問や批判を下す者の為に参考資料となる事を希望している。

仏教者にとっては、最後の判断は個人の意志に俟つべきもので、此の判断の下、各人は責任を以って引続く結果に対峙しなければならぬ。我々は、真理が蓄積し、それ自身擁護するものでないことを弁えているから、何等教義上の拘束を受けず、むしろ、謙虚、且批判的に、他の主義、主張を聴聞する様戒められたい。筆者は最後にこのつたない小論に対して建設的な批判や意見を寄せて下さる様期待している。これは単なる一個人の私見にすぎないからである。

医療は患者のためにある

東京銀座の一日特急ドック

全仏通信十月号で、一日特急ドックのご案内をしたが、さっそくいろいろ問合せをいただいた。スケジニールは、一カ月以上お待ちせしないように組んでいたので、地方の方もご上京のついでにぜひご利用いただきたい。ところで、先号の記事の誤植をどなたかお気づきだったのだろうか。私は、この誤植をみて、ヒヤッとした。

だが、医療は医者のためにあることを確信し、医療を医者立場で割切って考えることを主張

する私たちは、これを黙っているわけにいかない云々。——何となく、読みとぼしてしまいそうな文章だが、これは大へんな誤植である。もちろん文中の医者は患者のま

ちがいである。医療は患者のためであることを確信し、医療を患者の立場で割切って考える。医療を医者立場で割切られてはたまらない。自力と他力のちがいどころか、法と人、以上のあやまりである。これでは異安心だ。どうぞ安心して、ドック入りしていただきたい。

▲毎週土曜(または日曜)午前九時半より夕方四時半まで
▲料金は、三名の専門医(循環器消化器、眼底)の謝礼をふくめて一人一万九千円(女子は婦人科が加わり二万一千円)
▲パンフレットご希望の方は左記へ

東京都中央区銀座東一の一八
財団法人 保健同人事業団
付属診療所
電話東京〇二一六番
ご連絡は事務局次長 西来武治(にしらい)まで

参議院議員

大谷 賀 雄

事務所 東京都千代田区永田町一の二八号室
電話(内線六二八)一八二一
自宅 名古屋市中昭和区北山町三の九
電話千種(73)二三三〇

真言宗豊山派

管 長 鶴 昌 清
宗務総長 平林 有 高
庶務部長 小野塚 潤 澄
教学部長 川 田 聖 見
財務部長 久保 太 清

天台宗務庁

座 主 即 真 周 湛
宗務総長 清田 寂 坦
教学部長 谷 堯 昭
庶務部長 奥 野 覚 応
財務部長 柴 田 昌 源
滋賀県大津市坂本々町

日蓮宗々務院

管 長 藤 井 日 静
宗務総長 金子 辨 淨
庶務部長 伊 藤 勝 淳
庶務部長 下 宮 高 俊
庶務部長 茂 田 井 教 亨
庶務部長 山 本 玄 英
庶務部長 酒 井 謙 祐
新聞部長

中山妙宗

大本山法華経寺
管 長 増 田 日 遠
宗 務 長 竹 本 忠 進
山 務 監 督 吉 田 忠 進
庶 務 部 長 三 浦 康 正
教 学 部 長 遠 藤 日 基

臨濟宗妙心寺派

管 長 古 川 大 航
宗 務 総 長 宮 裡 顯 秀
總 務 部 長 足 立 禪 悦
教 学 部 長 林 文 道
財 務 部 長 田 中 春 嵩
社 会 部 長 河 上 義 政
法 務 部 長 秋 田 徳 重
花 園 会 本 部 長 对 本 愛 道

浄土宗宗務庁

浄土門主 小 岸 徹 宏
宗 務 総 長 小 田 隆 大
教 学 部 長 鶴 田 隆 大
支 所 長 新 谷 寛 応
總 務 部 長 野 島 尚 道
庶 務 部 長 北 川 一 有
庶 務 部 長 水 谷 哲 雄
總 務 部 長 稲 本 寛 順
副 議 長

東京仏教団

理 事 長 来 馬 道 断
常 務 阿 部 竜 伝 麻 布 照 海
理 事 沖 風 龍 小 熊 寛 澄
川 勝 宗 賢 栗 本 俊 道
杉 本 良 智 林 静 寛
松 浦 勝 道 山 口 秀 孝
監 事 秦 慧 玉 星 野 純 義
山 中 浩 文
事 務 局 長 神 野 真 一
豊 島 区 巢 鴨 高 岩 寺 中

静岡県仏教会

会 長 二ノ宮 清 海
事 務 所 沼 津 市 上 香 貫 東 本
郷 町 靈 山 寺 内
TEL(二局)一八四番

謹賀新年

昭和三十九年元旦

京都府仏教会

会 長 三 崎 良 泉
副 会 長 信 楽 香 雲

本年六月一、二日静岡市で 第十二回全日本仏教徒会議

恒例の関東甲信越ブロック県仏教会長会議は、昭和三十八年は東京仏教団の当番で、昨年十一月二十五日午後四時から、箱根において開催された。出席者は各県の会長或は常務理事二十八名で、各県より提案された議題について協議されたが、その議案及び審議内容は次の通りであった。

全仏提出議題

一、昭和三十九年度第十二回全仏大会(静岡大会)の開催について協力方依頼の件。

これについて、地元静岡県仏閔氏より、地元の大いに構想の概略について説明があり、決定事項として開催期が、明年六月一日、二日の両日に亘り静岡市公会堂で開催する旨報告があり、なお二千名迄の参加者に対して受入れの態勢を完備すべく準備の予定である旨説明あり、各県の協力方への要請があった。これに対し、全仏二ノ宮組織局長からも重ねて参加者の推せんについて要請した。次いで、連絡事項として

二、南ベトナムに対する義援金の勸募について。

全仏阿部総務局長より、経過報告あり、今後共募金については積極的協力を仰ぎたい旨懇請した。続いて、神奈川県仏より報告事項として、

一、神奈川県仏大会開催の件、

二、仏教図書刊行財団の構想につ

いて、

の二点について同県仏能登有兆師より説明が行われ、諒承された。続いて、墓地問題については、東京仏教団墓地対委員長杉本良智師より、「墓地問題の現況と訴訟の進行」と題して、報告が行われ、仏教界の重大なる権益問題として、今後共強力、且つ積極的応援協力を要請し、又全仏からも麻布総長、阿部局長が重ねて協力方を懇請した。その他、追加議案として、全仏より、懸案の

デンマークの聖書協会より、日本仏教界に聖書を贈呈する件。

について、阿部総務局長より経過の報告があったが、全仏としては大乗的見地に立って、親善の意味からデンマークの聖書協会の申入れを受け、全仏としても何か日本仏教に関する文献を、答礼の意味をかねて贈ることにはしたいと希望意見が述べられた。以上で、提出された議案についての審議を終了したのであるが、昭和三十八年の会議は出席代表者も二十八名という盛会で、終始活発な意見が交換され午後六時有意義に閉会した。

川崎市仏教婦人会結成式

川崎市仏教会(会長吉水智承師)では、去る十一月二十九日午後一時より、川崎市巾島町の川崎労働

会館において、川崎市仏教婦人会の結成式を挙行した。

これは、現下の「人造り運動」の国家的要請に答えて、家庭における宗教情操高揚の一助として、家庭婦人の力を結集し、正しい宗教の理解と、地域社会の浄化に寄与することを目的として、今般、川崎市内各地における単立仏婦を連合統一することになったものである。

全仏においても、出席参列方の要請に答えて、二ノ宮組織局長が来賓として出席し、祝辞を述べ、今後の発展を祝福した。

農地問題 全国会長会議開催

農地報償法案の今国会審議及び採択、報償措置を講ずること、二十億融資の早期成立等を目指して全国農地解放者同盟では、十二月六日午前十時より尾崎記念館で、全国会長会議を開催して対策を審議した。会議は先づ、天野副委員長より開会の挨拶について小柳、綱島等の各氏より夫々挨拶あり、成田情報局長から経過報告の後議事に入った。

議事の中心は、同盟の要求を今国会において如何に成立、通過せしめるかということ、これが対策として、

一、特別対策委員会をもって強力な推進をする。

二、池田総理の選挙公約でもあるので、これが実現のため、全国支部長の中央大会を開催し、政府に対して強力な請願をする。

などを決議諒承した。

なお支部長大会は十二月十七日十時より千代田区平河町の都市セ

ンターで行われた。

又、この会の審議に先立って、五日に逝去された同盟会長田中万逸氏の葬儀について協議が行われたが結局同盟葬とすることで意見が一致し、同日全員田中邸に準備のため参上した。全仏でも友好団体の誼をもって、香資を献じ、組織専門委員会副委員長鈴木敏範師に帯同して相馬主事が通夜の儀に出席し、焼香した。

全国 仏教英語弁論大会

全国学生仏教英語弁論大会は、国際仏教研究所(西義雄所長)の主催により、十一月三十日午後一時より、東京文京区原町の東洋大学本館二階十二番教室において盛大に開催された。

全仏から当日英文メッセージが寄せられ、西義雄所長が披露した。

岡山県仏教会

会長 稻 荷 日 宣

事務所 岡山市平井妙広寺内

財団法人 日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理 々

千代田区神田鎌倉町七番地 電話 四八二四八

東京都台東区北清島町一五〇 ヤング・イースト社

電話根岸 三三八四九 振替口座東京一四〇八八四番

会長 長 井 真 琴

専務理事 村野 宣 忠

赤松 常子

参議院議員

荒木 照 定

成田 山 新 勝 寺

参議院議員

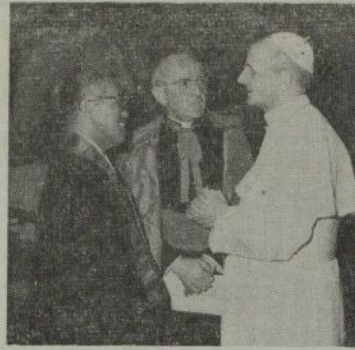
赤松 常子

仏教・加教の協調訴える 中山局長がローマ法皇に謁見

大任果して一ヶ月半ぶり帰国

十一月三十日 ローマにて
中山 理々

クーデター直前にサイゴン入りし、クーデターの模様をつぶさに見て来た全仏中山局長は、その後インドを経由してローマに到着し、十一月二十七日にローマ法王パウロ六世に謁見したが、中山局



長より全仏国際局へこのほど次のような通信がとどいた。

拜啓、二十六年ぶりにローマへ参りましたので、記憶は少々薄れて参りましたが、サン・ピエトロ寺院だけは覚えておりました。ローマ法皇にはマレラ板機卿の計らいで単独会見し、南ベトナム問題について語り、私の見て来た感想から将来の仏教、カトリック両教の協調を訴えて来ましたが、従来もゴ政権の施政については厳重に注意して来たといひ、将来についてはなお注意を払って行きたいと云っていただきました。六十六才の高令ですが仲々情熱溢れる方です。

なお中山局長はその後インド、セイロン等に立寄り、救済運動世界仏教徒会議の開催その他について仏教関係者と会談していたが十二月十一日午後九時十分羽田空港着のA.F機にて帰国した。当夜は麻布事務総長、柳部長、鎌田、小瀬川主事らが空港へ出向いた。

幼稚園の振興計画

“適性配置”を要求

東私幼 緊急理事会開く

東京都私立幼稚園協会(会長山口猪祐氏)では十一月二十六日の緊急理事会で、当面の緊急問題である文部省の「幼稚園教育振興計画」に対する「東私幼」の振興対策委員会への報告を検討した。

この理事会は翌日に控えた「第十三回研究発表協議会」に文部省の幼稚園教育振興計画の撤回を求める大会決議を提出するか否かに論議がしぼられたが、結局、大勢の意見として字句を修正して、私立幼稚園の適性配置、私幼教職員給与の公費助勢、私幼父兄の負担軽減を関係機関に強力に申し入れることになった。

これは「日私幼」幹部の意見が「幼稚園教育振興計画」自体に私

南ベトナム問題報告会

一月十四日神田学士会館で

既報のとおり、このほど帰国した中山局長の帰国報告会は、東京一月十四日午後五時半から、東京神田の学士会館ホールで、全仏主催のもとに開催されることになった。

当日は全仏の理事以上の役職員のほか、各種専門委員をはじめカトリック教徒なども多数出席するもようで盛況が期待される。

全仏では多数の来会をのぞんでいる。名称は南ベトナム問題報告会で会費は無料。

立も入っており、正面切って撤回運動を起すことは世論の動向からみても「マズイ」との考えから「東私幼」の動きに反対の気運が出て来たからのものである。しかし「東私幼」の理事の中には「日私幼」振興対策委員会の態度は生ぬるいとして「東私幼」独自の強力な対策を打出すべきだとの積極的意見も相当強い。

又、「東私幼」では東京都知事に対して文部省幼稚園振興計画に伴う公私立幼稚園の新設にあたって私立幼稚園を無視することなくその保護育成のため、次の様な要望事項を速やかに実施する様申入れた。

①文部省側の話しでは東京都は七

ヶ年計画の対象外であるとして、その根本的な問題を究明して適当な措置を速やかに講ぜられたい。

②すべての幼児に適切な環境を与えて幼児教育が受けられるよう都内の木場に幼稚園の不足している地域に公立幼稚園を設置されるよう指示されたい。

③公立幼稚園の新設に当たって小学校の空教室を利用する時は、公立幼稚園相互の適正配置をするよう指示されたい。

④都教育委員会、都学事部間、市区町村教育委員会と市区町村の私立幼稚園主管課との話し合いの場を設置するよう指示された。

⑤市区町村教育委員会はその地域所在の私立幼稚園協会と連絡するよう指示された。

本願寺派門主

大谷光照御夫妻ら印度へ

浄土真宗本願寺派門主大谷光照御夫妻は、神田寛雄随行長ら一行九名と共に印度仏跡巡拝のため十一月二一日午後二時羽田発の日航機でバンコック経由でカルカッタへ向け出発した。

この旅行はインド政府の招請によるもので、印度各地の仏跡を廻り、ひきつづきビルマ、タイ等の各仏教国を廻り親善を深める。

なお門主一行は帰路香港を経由して十二月二十八日午後八時四十分大阪空港着のキャセイ航空機で帰国する。

全仏では門主一行の出発に際して麻布事務総長、岩本部長、相馬主事らを空港へ出向かせた。

栃木県日光市内二三〇〇

日光山 輪王寺

門跡 菅原栄海

電話日光31番、106番

築地本願寺輪番
東京出張所々長

田丸道忍

京都市東山区林下町

知恩院

門主 岸信宏

大本山 川崎大師

貫首 高橋隆天

印度で癩センタ一の定礎式行わる

全仏もメッセージ送る

印度の癩病患者は公称二五〇万人と称し、A・A諸国と共にその数は世界的に多いが、一昨年発足した財団法人アジア救済協会では昨年初頭須賀理事長(元駐印大使)らを現地派遣し大統領、ネール首相らと会談し、ライ病院建設のための敷地六万坪が無償譲与されるに至った。そして昨年五月三十日には同協会側と印度政府側との間に調印式がもたれ、その後も着々とライ病院建設運動は進んでいくが、去る十二月十五日現地アグラ市近郊のターヂマハールをのぞむ、風光明媚な同病院建設予定地において、ラダクリシュナン大統領、ネール首相ほか閣僚、松平駐印度日本大使らが出席のもとに盛大な定礎式が行われた。

この定礎式には池田総理大臣をはじめ大平外相らのメッセージが寄せられたが、全仏でも高階瓊仙会長からのメッセージを送った。

なお全仏では昨年十月二六日の常務理事会において、これが運動趣旨に賛同して協力態勢をとって来ている。因みにアジア救済協会常任理事に全仏中山国際局長が個人的に加っている。

故ケネディ大統領

追悼国民大会開かる

ケネディ前米大統領の急死は全世界の悲しみをよんだが、十二月十七日午後一時から東京日比谷の公会堂で、宗務界政界等各界の

代表が集り、盛大なる「故ケネディ米大統領追悼国民大会」が行われた。

この追悼国民大会は、米国民の悲しみを共に分かち全日本の国民の哀悼の意を表明し、日米両国民の一層の信誼確立につとめ、世界平和のために散った故ケネディ大統領の犠牲を越えて、真の世界平和樹立への誓いを新たにすること趣旨とするものであるが、全仏

デンマークから

友好のバイブル贈らる

銀座東急ホテルで贈呈式

キリスト教を国教とするデンマークの聖書協会(在コペンハーゲン市)から、日本聖書協会(村田四郎理事長)を通じて、日本仏教徒へ二百万円相当の聖書(バイブル)が寄贈されることになった。

これはコペンハーゲンに在住のキリスト教信者の発案によるもので、その主旨とするところは、飽くまで仏基両世界の親善のため成されるもので、日本聖書協会では「これを通じて日本仏教徒と友好を深め、ひいては両教界を超えて世界平和のため努力し合いたい」と云っている。

全仏では十二月三日の常務理事会でこれを正式に受けることに決し、これが贈呈式は全仏、中外日

でもこの追悼大会に積極的に参加すべしと云う意見が、過般の常務理事会の席上で太田常務理事から提出され、高階会長が実行委員となって当日参加した。

当日はこの大会の発起人代表吉田茂元総理の開会の辞には「まじりNHK交響楽団による荘嚴な演奏により全員黙祷をさし、世界平和への祈りのことば、平和宣言等があり、終つて「故ケネディ大統領を偲んで」と題する講演と、在りし日の故大統領のフィルム等が上映され、参会者全員は大統領の尊い犠牲を大いなる基盤として、人類の悲願である「平和」のために努力し合うことを誓い合った。



聖書を受ける全仏高階会長(右)

報社、日本聖書協会の共催で同月九日午前十一時から東京銀座の東

急ホテル二階須磨の間で、全仏役員、キリスト教界役員など多数が出席して盛大に開催された。

式はまづ司会の峯岸忠哉氏により開会が宣せられ、キリスト教側を代表して都田恒太郎氏(日本聖書協会総主事)が挨拶をなし、ついで全仏側から麻布照海事務局長が謝辞を述べ、ついで高階瓊仙聖書協会理事長の手から高階瓊仙全仏会長の手へ皮製表紙の立派な聖書が贈られ、これに対する全仏側からの仏典も高階会長から村田理事長へ贈呈され高階会長の拍手をあげた。ここで出席の松下正寿立教大学総長から挨拶があり、「仏教及基督教の相互理解が今日具体的に実現されて大変うれしい。現代は宗教者と無宗教者との戦いの時代であり、全宗教界がこれに対処し、人類の悲願である世界平和のため努力すべきだ」とのべ万場の共感を博した。終つて会食に移ったが、十二時より全仏の阿部電伝総務局長と聖書協会の都田総主事は夫々十五分間に亘り新聞記者会見をなしたが、その席上都田氏はこの話は三年前からデンマークの方からあったが、今日その結実を見て嬉しい。これを契機として両教界の友好関係を深めたい。ヨーロッパに与えた今回の美筆はセンチメンタルなものと思う。と語り、阿部局長も聖典の交換と云うことは未だかつて無かったことである。これを機に両教界の相互理解を深め、世界平和のために努めたい。いつれ機会があれば日本仏教代表をデンマークへ派遣することとも考えられるとのべ和氣あいあいの中に記者会見を終えた。なお

午餐会では出席各師から夫々祝辞のべられたが、最後に高階会長の発声により万才を三唱し、午後二時に散会した。当日は仏教界から、高階全仏会長、金剛秀一常務理事、岩本勝俊、岡野正道夫妻、友松円諦師ら三十数名が参席した。

李方子妃祖国へ帰る

全日仏婦副会長として活躍

元朝鮮王妃であられた李方子妃はこのほど病身の夫李垠殿下と共に再び祖国韓国へ帰ることになった。李妃殿下は熱烈な仏教徒であり、在日中は全日本仏教界の副会長の副会長として日本仏教界のために大いに活躍された関係もあり離日の十一月二十二日には羽田空港特別室に全仏、全日仏婦関係者多数が詰めかけ挨拶を交し、別れをおしんだ。なお李妃殿下御一家は外務省仕立ての日航特別機にて午後一時半に京城へ向った。

全仏文化専門委員会

着々実動態勢に入る

全仏文化局は仏教文化の興隆と教化活動の企画推進を計り仏教運動の全一性を強化する。その使命達成のため専門委員会を数回に渉り開催し、活発なる意見を開陳して初期の活動態勢を着々と進めて来ている。具体的には新年に入つて早々実動に移るもようであるが当面の活動方針としては①仏教文化の興隆策、②教化講習会の開催③教化資料の作成、④マスコミ対⑤仏教者の社会活動の指導、⑥オリンピックにおける文化活動、⑦国際文化会議の開催等々である。

幼稚園教育

振興計画の問題点

文部省の「幼稚園教育振興七カ
年計画」が去る十二日に同省から
発表されたが、この計画は、実
周到な配慮によって綴られてい
て一般のものからは拍手かっさいが
得られるようになっていた。

しかし、この計画のなかには多
くの問題点がふくまれている。
以下その点についての私見をの
べてみたい（STO）

○保育所との調整

「この計画をすすめるにあたっ
ては、保育所の普及計画との調整
をはかるものとする。」とのべら
れているが、その内容が明らかに
されてないことがまずあげられ
るであろう。即ち、現実におい
てどのような措置をとることが調
整の方法であるかということがは
っきりしていないことである。

いままで、あなたはあなた、私
は私というような態度をとってき
た文部省と厚生省が、この計画に
ついてだけ話し合いができてい
るのであれば、その調整について話
し合った内容を明らかにして、こ
の計画によって幼稚園の増設をは
かろうとする市町村がどのような
ことを考慮することがこの計画に
いうところの調整であるかをほ
っきりと示しておくべきであらう。
また、このことが、この計画の
基礎となつて市町村数並びに
人口一万に対する一園一二〇名取
容という数字の説明ともなりうる

からである。

もし、そのことがないならば、
この文句はただ単なるかざり文句
であり、何らの政策も指導性もな
いものであり、悪く感ぐるならば
幼保の関連の立場からこの計画を
批判されたときとか、大蔵省で厚
生省の保育所増設計画との関連を
質問されたときとかの逃げ道のため
に用意した文句としかとれない
ようなものであるからである。

最近、幼稚園と保育所との関連
の根本的な再検討、明確化を望む
声は、参議院の文教委員会の決議
をもち出すまでもなく一般的なも
のとなつてきている。しかし、文
部省も厚生省もみずからのカラの
中にとじこもつて真剣にこの問題
にとり組まうとせず、ただ一片の
うたい文句でこれをかわそうとす
るやにみえることは何ともなげか
わしいことである。

また側聞するところによると保
育所においても幼稚園と同じよう
な教育ができるように文部省の定
める教育要領によって保育所でも
教育ができるようにするのでとい
うことが文部省と厚生省の間で話
し合いが進められているようであ
るが、このことをもつて、幼稚園
と保育所との関連を考えているの
だというのであれば、これはまっ
たくの詭弁ではない。

○公私立幼稚園の適正配置

「新設幼稚園の設置者は、市町
村または学校法人とする。この場

合、当該地区における私立幼稚園
の設置状況等に基づき、ふん勘案し
て計画的に設置するものとする」
とのべられているが、これは、こ
の計画が、現存の私立幼稚園の存
続を確保するために必要なことと
ある。

しかしながら、これは、はなは
だ抽象的な表現であつて、市町村
なり都道府県知事及び私学審議会
が具体的にどのような考慮をほら
うべきかがはっきりせず、また計
画的にというが、現在のように公
立は公立、私立は私立というよう
な教育委員会と私学審議会なり知
事部局なりが何らの連絡もない状
況でどのようにして計画的に設置
させようとするかがはっきりとし
ていない。

適正配置については、幼稚園設
置基準制定についての文部事務次
官通達にも抽象的な文句で考慮す
べき点としてあげられているが、
その具体的なことがあげられてい
ないため、当然考慮されるべき
筈の公私立間のこととは全然考慮さ
れず、現に東京都のN区において
は、法令、通達等を最も忠実にま
もるべき教育委員会に、適正配置
などというものは私立間のみ必
要なことであつて、公私の間にお
いては考慮する必要なしと放言
する者がいて、この計画の基礎と
なつていいる現存の私立幼稚園の存
続をあやうくするようなところに
小学校の空教室を利用して公立幼
稚園を設置しようとしているが、
（きくところによると、この小学
校は近く統廃合問題の対象となる
ような小学校で、幼稚園を併設す
ることによって存続の手がかりに
しようとする意向も含まれている

聖徳宗総本山

法隆寺

管長 間中定泉

京都市嵯峨

大本山 大覚寺門跡

草繁全宜

世界仏教協会々長

「女性仏教」主幹
「真宗の世界」主幹

野依秀市

目黒不動 滝泉寺

青木道晃

川越喜多院

塩入亮忠

東京都文京区大塚上町 西信寺

栗本俊道

電話 〇六二八番

米国仏教団本部

開教総長 花山信勝

事務局長 藤永 覺 眠

教育局長 辻 顯 隆

日校部長 藤本 芳 彦

英語書記 柏木 円 整

タイピスト 松井 幸 弘

住所 米国加州桑港市オクタ
ビア街一七一〇番地
1710 OCTAVIA ST.
SAN FRANCISCO 9
CALIFORNIA, U.S.A.

全日本仏教

婦人連盟

株式
会社 中外日報社

本社 京都市東山区一橋宮ノ
内七番地

電話 〇九八九・六二五五

支社 東京都文京区富坂一ノ
五 川田ビル内
電話 (812) 一九二二番

やのことである、こうしたことが起らないような具体的な内容を示さない限り、ただ単なるかぎり文句、文部省の責任ののがれのための文句にとられてもやむを得ないことである。更に、この文句をいれておかないと私立がやかましいから入れておけというような、お義理の文句にとられても、またやむを得ないであろう。

文部省は、こうした誤解をとき計画に対する態度を明らかにするために、厚生省の「保育所設置認可の方針」にあるごとく、「新設の場合は既設幼稚園がその周囲におおむね二キロメートルの地域内がないこと」というような条件を明らかにするなり、公私立を通じての計画樹立機関を各都道府県なり市町村毎に設置することを明らかにすべきであろう。

若し、このことが明らかにされない場合は、計画自体の大きな欠かんとするばかりでなく、私立としては全面的な賛意を表すことのできないものとなってしまうものである。即ち、私立の関係者全体の生活権にまで及ぶ問題であるからである。

○小学校空教室利用

小学校の教室があいているからとか、経済上の理由で専用の場としての幼稚園をもつことができないからとかいうことで小学校の空教室を利用して幼稚園をつくることは幼稚園設置基準の趣旨でないことを文部省が通達なり説明しながら「公立幼稚園の新設(学級増を含む)」にあたっては、当該市町村における小学校の空教室などの既設施設の活用をはかるものとす、」とのべていることは、この

計画のなかで最も矛盾した、文部省みずからが文部省の方針をくつがえす計画であった、なっとくすることができない点である。

また、小学校教育のために設けられた施設を幼稚園に利用したり同一施設内に児童と幼児を同時に収容したりすることは、建物が統一しているためお互に邪魔になるとか、児童のための施設のため幼児に適用しない点が多いとか、遊び場が共同のために危険が多いとか、遊具等の共用を余儀なくされるとか、時間的に幼児が抑圧を受けるとか、しつけの上で困る点が多いとか、園長が小学校長と兼任のために園児とのつながりが乏しくて教育上好ましくないとか、現在までの併設の幼稚園の大部分が併設は失敗であり教育上好ましくないことばかり多いことを発表報告しているが、こうしたことも考えずに安易な方法をとうとうとする文部省並びにこの文部省計画を推進しようとする支持者の教育的良心をうたがいたくもなるではないか。

更に、この計画が発表されたことによつて、この計画対象に入らない市町村並びにこの計画による補助を望まない市町村がこれに便乗して、得たりかしこしとはかりに安易な空教室利用の幼稚園設置計画を私立的の適正配置を考えずに進めるようになっては教育上誠にゆうりよすべきことであるととも、健全な幼稚園教育の振興にとつて大きなマイナスになることをおそれるものである。

○その他の諸点

その他この計画のなかで明らかにすべき諸点をあげると、①「幼

稚園設置基準に到達していないものについては、その充実を促進するような措置をとるものとする」とあるが、その具体的な方策とはどのような市町村をさすのか③「教員の待遇改善をはかる云々」と述べていることは、私立の教員をも含めて考えているのか、実現できるのかどうか、④地方交付税の算定には私立をも含めて考えているのか、実現できるのかどうかなどであろう。(私幼時報第百三十三号より)

中山局長の帰国談

第七回世界大会は印度で開催か

一ヶ月半に亘る東南アジア及ローマの旅を終えて帰国した中山全仏国際局長の帰国歓迎会は、十二月二十五日午後四時から、東京芝田村町の中国飯店で、全仏役員が参席して開かれたが、席上中山局長は大要次のように述べた。

の祝賀第一号の外国人と云う事で大歓迎をうけた。南越の仏教界はこれで完全に生氣をとりもどした。私は日本から持参した観音像を贈ったが、その喜びは大変なものだった。新首相のゲン・ゴク・トリー氏にも、また革命軍のリーダーのドン・ヴァンミン中將にも会ったが、兩人とも熱心な仏教徒で心が歓迎を受けた。とりわけトリー首相は前駐日大使でもあり再会をなつかしがった。これでローマ行きを一時断念したが、南越仏教徒の強い要望もあり、二十六年ぶりにローマへ飛んだ次第である。ローマ法皇は六十六才と云わ

れるが、極めて情熱溢れる方で、今後の南越の平和問題について熱心に意見の交換をしてくれた。とにかくこの問題のたために、日本からよく来てくれたと非常に喜び記念のメダルを贈ってくれた。なお帰途インドに於てラダクリンヌナン大統領、ネール首相及びダライ・ラマ等に会見したが、特に第七回世界仏教徒会議の開催について伺ったところ、大統領も首相もWFBタイ本部がインドを開催地に推薦してくれば、喜んで支援しますよと云ってくれたのは感激した。これは私がバンコックに立寄った際に、ブーンWFB会長から印度へ到着したらこのことを伺ってほしいと云われていたからです。なお帰路再びバンコックに立寄りサリット首相が急逝された事を聴き、急いでワット・ベンチャマポビット寺院に安置してある故首相の霊前で、全仏を代表して焼香礼拝し、新首相のタイム氏にも会見し敬意を表して参った次第であります。

神田寺の

寺院功労者授賞式行わる

全国各地の寺院教役者をはじめ信徒の総力で、去る三十七年九月落成を見た東京神田の神田寺仏教文化センターでは、これらの協力と支援にこたえるため、かねてから教化に専念している全国の住職者を顕彰するべく、「寺院教化功労賞」を贈るため、各寺院より原稿を公募して選衡をすゝめていたが、このほど次の諸師が見事入賞し、正道会の十二月八日、午後二時から神田寺で盛大なる「寺院教化功労賞授賞式」が開催された。

- ① 秋田寛俊師(四十才) 天台宗観音寺住職、千葉県印旛郡印西町浦部一九七八番地
- ② 魚尾晃久師(四十九才) 淨土宗願成寺住職、静岡県三島市川原ヶ谷一八番地
- ③ 土井敏照師(四十六才) 西山淨土宗宝樹寺住職、大阪府泉南郡岬町深日
- ④ 安居良光師(六十二才) 曹洞宗常正院住職、山梨県甲府市上条新居町二二六三番地
- ⑤ 山上文明師(三十四才) 曹洞系単位寺院円年寺住職、宮城県栗原郡栗駒町沼倉法華堂七十二番地

なお当日は全仏組織委員長として栗本俊道師が祝辞をのべ、また柳部長も出席し挨拶をなした。

二ノ宮組織局長ら台湾へ
中国仏教会(台湾)の招聘により、二ノ宮清海師(曹洞宗教化部長、全仏組織局長、同常務理事)を団長とする訪中曹洞宗代表七名が日本仏教代表団として一月九日十六時大阪空港発のCAT機で出発する。一行は、台湾、香港、沖縄の各地を訪れ親善を深め同廿四日帰国する。

編集後記

△あけましておめでとうございませう。本年も旧年に増して同信各位の絶大なる御支援御鞭撻のほどお願い申し上げます。
△新春を迎え、新人事を以て力強く前進することを誓い、文字通り全一性と企画性をもった「全仏」確立のため潜竜昇天の意気をもって努力いたす所存であります。
(編集子)